ISSN 1348-5458

UNIVERSITY OF YAMANASHI
Regional Core & Global Professionals

山梨大学附属図書館報

やまなし

2022.3.25
vol.19
no.2

contents

2 ひとが集う図書館
4 図書館利用者の声
5 学生にすすめる本
6 図書館トピックス
- 「L5アートミックス2022 -井坂研究室の試み-」を開催［本館］
- 「自分の父母の介護と看取り」を開催　［医学分館］
- ホームページのリニューアルについて
- 自動貸出返却装置の活用について　［本館］

8 今後のイベント紹介

ほか

The Yamanashi
Bulletin of the University of Yamanashi Library

lib.yamanashi.ac.jp

ひとが集う図書館

工学域長　中山（ナカヤマ）　栄浩（ヨシヒロ）

12月初旬に附属図書館の担当者から図書館報「やまなし」の巻頭言に関する執筆依頼をいただきました。学域長等にローテーションで依頼しているとのことでしたので，お引き受けすることにいたしましたが，各種イベントに関わる挨拶や原稿執筆が不得手なため的を得た記事にならないことをご容赦ください。

唐突ですが，現在工学部が抱えている課題のひとつをご紹介させていただきます。それは工学部の女子学生が少ないことです。令和3年5月時点における工学部に在籍する女子学生比率は12.4%程度で，全学の比率31.4%を大きく下回っています。ものづくりを主要な使命とする工学部では，生活を支える高機能で利便性の高い工業製品を社会に提供可能な能力を身に付ける必要がありますが，それらに加えて現在では，年齢や文化の違いさらには性別や能力にも依存しないユニバーサルデザインにも配慮することが求められています。そのような状況からも，ものづくり関連企業により多くの女性エンジニアを輩出する必要がありますので，工学部においても女子学生を増やすことが命題となっています。このためには先ず，工学部への女性志願者を増やす必要があり，本質的には小中学校における数学・理科教育の拡充が必要となりますが，短期的な方策も同時に検討する必要があると考えています。例えば，受験科目の見直しもそのひとつに挙げられ，現在の物理や化学に加えて女子高生が受け入れ易い生物の共通テストにおける選択を可能とすること，あるいは更に進んで個別学力試験で数学と理科の筆記試験を廃止し小論文や面接を通じて工学に関わるセンスや意欲を総合的に評価することなど，女子高生の出願を促すための選抜方法についても議論を行なっています。

他方，本年度開催された国立大学学部長会議の資料において，小職としては大変驚いた情報が紹介されていました。それは，工学部キャンパス内にパウダールーム（化粧室や洗面所）を設置している大学が複数みられることです。パウダールームの話を女性職員にしたところ，大学のパウダールームをテーマとしたサイト（例えば，「日本の学校パウダールーム情報」など）があることを教えていただきました。そこには，とても明るくオシャレで居心地が良さそうなパウダールームが多数紹介されており，このような施設を備えた大学であれば受験してみたい（学生生活を過ごしてみたい）と思う女子高生はたくさんいるのではないかと思いました。ダイバーシティやジェンダーレス等の重要性が

叫ばれて久しくなりますが，パウダールームに対する理解も欠落していた感覚の低さを大変反省しております。小職が聞いた限りにおいては，甲府キャンパス内にはパウダールームの整備はなく，くわえて更衣室も十分でないことを認識できました。「女子学生に対して居心地が良い施設」の整備を通じて，女子高生に工学部への進学に興味を持っていただきたいと考えています。

さて本学附属図書館には，ラーニングコモンズ，展示室，視聴覚室さらには自販機コーナーなど来館者の居心地や使い勝手に配慮したさまざまな設備や仕組みが設けられています。くわえて，蔵書の充実のみならず，紙媒体以外の電子ジャーナルや電子図書さらには各種データベース等の整備や拡充も進んでおり，図書館としてあるべき姿にむけて堅実な整備が進んでいると感じられます。図書館長や事務職員をはじめとする関係の皆さまのご尽力によるものであり，この場を借りて衷心より厚く御礼申し上げます。他大学図書館の動向が気になりましたので，ホームページ等で情報収集したところ，図書館の構造自体に特徴を持たせた沢山の事例がみられました。本学図書館の建物を一新し，特徴付けることも一案かと思いますが，実現のためには多額の費用が必要なだけでなく，施設更新のタイミングが何より重要となりますので，長期的な計画と言わざるを得ません。他方手頃な事例としては，ミニ特集コーナーや自由研究コーナー，あるいはカフェを併設するケースが多々みられました。さらにコンビニを併設している図書館，中にはボルダリング施設を設けている事例もみられ，これらの整備であれば少しは現実問題として捉えられるのではないかと感じました。さらに大学に留まらず，図書館を含んだ複合施設まで調査範囲を広げたところ，食品スーパーやトレーニングルーム，さらにはキッチンスタジオなどを併設したものもみつかりました。これらの施設はいずれも図書館の本質に関わるものではありませんが，さまざまな観点から魅力的な施設やアイテムを整備することを通じて，ひとに集まっていただくキッカケを提供していると言えます。先に述べた工学部キャンパスにおけるパウダールームや更衣室の整備も，女子高生に興味を持っていただくためのひとつの方策でしかなく，決して学術的ならびに本質的とは言えません。図書館が知の拠点であり続けることの重要性は，未来永劫変わらないと思いますが，ひとりでも多くの学生や近隣の皆さまに図書館を利用していただくためには，従来の発想や方向性から一歩踏み出した方策の検討も重要ではないでしょうか。取り留めの無い内容で大変恐縮しておりますが，図書館の新たな展開や新たな姿を期待しつつ，独り言を終わりにさせていただきます。

本と出会う場所としての図書館

医学部医学科　3年　喜多村（キタムラ）　まゆ（マユ）

皆さんにとって，医学部の図書館はどういう場所でしょうか。―テスト前に籠る場所，レポートを書く時の作業スペース，授業で必要な教科書を借りに行くところ―と答える人が多いのではないでしょうか。自習用の机がたくさん並び，コンセントも使用でき，授業で必要な教科書は何冊も置いてあり，とても便利な場所ですよね。

ですが，「本と出会う場所」という最も基本的な利用の仕方も見直してみて欲しいなと思います。私がこう思うようになったきっかけは，図書館でのアルバイトを始めたことです。アルバイトのお仕事の中で，皆さんが返却した本を配架する際に，興味深い本や勉強に役立ちそうな本，自分では手に取らなさそうだけど開いてみるとおもしろい本にたくさん出会います。それら全てを読むことはできませんが，知的好奇心がくすぐられ，もっと自分でも本を探してみようという気になります。そういう目で本棚と向かい合ってみると，おもしろいテーマに出会えたり，勉強する上での新しいアイデアが浮かんだりするので，私はその瞬間が好きです。

新しい本に出会うきっかけは，本棚まで行かなくても，図書館の職員さんが用意してくれています。例えば，受付前にある学生におすすめの本や，2階に上がってすぐの新着図書のコーナーなどです。返却された本が並ぶラックを見てみるのもいいかもしれません。自習目的でしか図書館に行かないという人も一度違う目線で図書館に訪れてみると楽しいかもしれません。

本当の自分を探しに

大学院　生命環境学専攻　修士課程　1年　宮川（ミヤガワ）　悟（サトル）

近年，日本人の本離れが深刻な気がしてなりません。小学生の頃を思い出すと，暇さえあれば何度も読んだお気に入りの本を読んでいました。しかし，今はどうでしょうか。暇さえあればスマホ，本を読むのすらもスマホで済む時代。我々はスマホを使っているのではなく，寧ろスマホが我々を使っているとすら思います。

私は生き物が大好きです。朝大学に着くといつもハクセキレイが尻尾を振って挨拶してくれます。コツコツコツという音を聞いて上を向くと，コゲラが餌を探して一生懸命木を突いています。時には，全く知らない生き物に出会うこともあります。そのような時，私は真っ先に図鑑を求めて図書館に行きます。スマホですぐに調べることもできます。しかし，スマホは点でしか，その生き物だけしか知ることができません。図鑑は体系的に生き物がまとめられていて，面で生き物を見ることができます。例えば，調べる中でお気に入りの生き物に出会えるかもしれません。その生き物が見たくて車で探しに出掛けることだってあります。

確かにスマホは沢山の情報を仕入れられて便利です。しかし，知らなければいけないことは世の中には沢山あるけど，それ以上に知らなくていいことの方が世の中には多いと思います。だから，スマホを家に置いて図書館に来てみてください。自分が本当に知りたいことに出会えるかもしれません。

学生にすすめる本

スマホ脳

（新潮新書；882）

アンデシュ・ハンセン　著
久山 葉子　訳
新潮社

● 本　　館　本館2F一般書架　　491.371
● 医学分館　2F開架図書（第三）　WL300/SUM

皆さんは，登校後，スマホを自宅に置き忘れたことに気付いた時，どうしますか？多くの方々は，取りに帰られるのではないでしょうか。私自身，スマホデビューは数年前と遅く，まだまだビギナーの部類かと思いますが，既に生活の必需品となっており，時間が許せば取りに帰るかも知れません。スマホでのメールチェックやネット検索は極めて便利で，コロナ禍のリモート会議では，その利便性を享受しています。一方で，必要以上にスマホを手に取る自分に気付くこともあります。若者の場合は，更に頻繁にスマホと接触しているようで，平均スマホ時間は数時間以上と報告され，夜中にスマホをチェックする者も多いと聞きます。これら長時間の接触による健康面や能力に対する悪影響も危惧されますが，強すぎる承認欲求や必要以上の他人との比較等も問題視されています。

本書では，この10年で人類の行動様式を劇的に変化させたスマホが我々に与える影響について，スウェーデンの精神科医である著者が，「人間の進化の見地」から科学的研究結果を基に分析し，睡眠障害，記憶力・集中力の低下，依存等をもたらす可能性を説いています。特に，睡眠に対する影響については，日頃から私自身も感じていたことが科学的根拠を基に解説されており，大変興味深い内容です。今や皆さま方の日常に欠かせない存在となったスマホと，今後どのように付き合っていけば良いかを考えるためにも，是非一読いただきたいと思います。

医学部　外科学講座第一教室　　市川（イチカワ）　大輔（ダイスケ）　教授

建築家になりたい君へ

隈　研吾　著
河出書房新社

● 本　　館　2F新着書架　　520.7

「建築家」というと，優れた建築作品を次々と生み出し，その時代をリードして社会に大きなインパクトを与えた人を思い浮かべる方が多いかもしれません。たとえば甲府駅北の山梨文化会館は故・丹下健三氏，JR竜王駅の駅舎は安藤忠雄氏の設計です。二人とも日本を代表する建築家で特に安藤氏は独学で建築を学んだことでも知られています。多くの建築家がいる中で隈研吾氏は2020年東京オリンピックのメイン会場となった新国立競技場の設計者として多くの注目を集めることとなりました。

本書は建築家になるためのハウツー本ではありません。1964年東京オリンピックの時に国立代々木競技場の建築と出会い，10歳で建築家を志した著者が，今日まで建築とどのように向き合ってきたのか。自分自身を長距離ランナーにたとえながら建築の見方，人との出会い，生き方，地域とのつながり等について普段着で語りかけてくる「自分史」です。時代が求めているのは特別な立場の「建築家」ではなく，人々に寄り添って考えることのできる「普通の人」である，という著者の主張も近年の設計活動を見ると説得力を増します。

建築を志すときに何が必要なのか。著者は「広く興味を持ち」，「大きくてやさしい人になってほしい」とエールを送っています。建築以外のことにも興味を持ち，観察力，対話力，説得力，そして熱意が大切だと。建築を学ぶのに無駄なものは何一つなく，読書，旅行，留学，食，音楽，スポーツ，コミュニケーション･･･すべてが必ず役に立つと考えたなら，日々の暮らしを丁寧に生きていくことが大切だと感じました。

本書には未来を切り拓いていこうとするときの知恵が詰まっています。建築を志すか否かにかかわらず，学生のみなさんにはぜひ手にとってほしい書です。

教育学部　生活社会教育講座　　田中（タナカ）　勝（マサル）　教授

附属図書館医学分館「生と死のコーナー」関連イベント

講演会「自分の父母の介護と看取り」を開催

令和3年12月3日（金）医学部キャンパスにおいて，附属図書館医学分館「生と死のコーナー」の関連イベントとして，講演会を対面とオンラインで開催し，地域の医療関係者，一般の方，医学生，教職員など223名が聴講しました。

今回は，山梨市立牧丘病院古屋聡医師を講師にお招きし，「自分の父母の介護と看取り」と題し，ご講演をいただきました。

令和3年11月，日本テレビ系ドキュメンタリー番組『NNNドキュメント'20』において，「家族の役割～最期の過ごし方～」が放映されました。講演では，この放映内容を紹介しながら，古屋医師自らが，末期がんで余命わずかな父親，そして認知症で寝たきりの母親に対して，医師として，また家族として，どのように関わったかを写真や動画で紹介しました。

動画では，父親に病気を説明する場面，父親が亡くなった際，認知症である母親に父親の病気の説明する場面があり，医療者もしくは家族は，患者が高齢であったり，認知症であっても，気持ちに寄り添い話をすること，本人の意思を尊重することの大切さを説きました。

また，写真や動画を残すことの意義を述べ，それは家族だけでなく，医療者にとっても，振り返りとして活用できることを述べました。

参加者からは，「将来医師になる身として，“気持ちに寄り添う”とはなにか深く考えました」「映像・写真は非常に強い伝達力・説得力があり，自身の立場に置き換えて考えるきっかけになりました」といった感想が寄せられるなど，有意義な講演会となりました。

L5アートミックス2022 - 井坂研究室の試み-

令和4年1月19日（水）～1月28日（金）の期間，山梨大学附属図書館本館２階第二展示室にて「L5アートミックス　２０２２―井坂研究室の試み－」を開催いたしました。

油彩画，水彩画，CG，ミクストメディア，写真等，教員及び学生の皆様の迫力ある熱い作品が展示されました。

井坂研究室では，絵画の領域を中心としながら，芸術の可能性を探るべく，油彩画，水彩画といった従来の絵画表現から，写真，CG，ミクストメディアといった表現方法まで多彩な表現方法を模索しています。展示された作品には，それぞれ繊細で複雑ないろいろな表現に心打たれるものがありました。

今回も，学外者の入館を制限しているため，入場者数は，減少しましたが，今後は，コロナ禍が終息したところで，一般の方にもぜひ来ていただき作品に触れ，彼らの表現を受け止めていただけたらと思います。

出品者：　井坂　健一郎（山梨大学大学院　教育実践創成講座　教授）
清水優衣（教育学部芸術身体教育コース美術教育系4年）
原中紫帆（教育学部芸術身体教育コース美術教育系4年）
鈴木葵泉（教育学部芸術身体教育コース美術教育系3年）
山方一志（教育学部芸術身体教育コース美術教育系3年）

ホームページをリニューアルしました

令和4年2月28日(月)に，山梨大学附属図書館のホームページをリニューアルしました。毎年発行している冊子体「利用案内」の情報を取り込んだほか，新旧サイトに分散していた情報をまとめなおしました。また，スマートフォンによる閲覧にも対応しました。

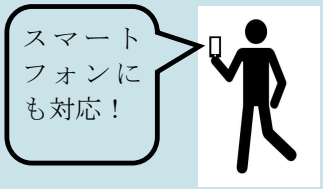
図書・電子資料・データベースなどの各種情報源やサービスをご利用の際のガイドやブックマークとしてお役立てください。

新ホームページ
https://lib.yamanashi.ac.jp

本館
https://lib.yamanashi.ac.jp/main/

医学分館
https://lib.yamanashi.ac.jp/igaku/

子ども図書室
https://lib.yamanashi.ac.jp/pyonpyon/



【本館】図書の返却に館内の自動貸出返却装置をご活用ください

令和4年1月より，本館の図書返却ポストは本館玄関のみの運用となりました。開館中に返却ポストをご利用の場合は，翌開館日の返却処理となりますが，館内1階にある自動貸出返却装置では即時返却処理がされますので，なるべく自動貸出返却装置をご活用ください。

2階の自動貸出返却装置は貸出のみが可能ですが，1階の2台の装置は貸出・延長・返却のすべての機能が有効となっています。

1階入退館ゲート付近

1階総合カウンター付近

返却ポストは開館作業時
１日１回のみ回収します

館報「やまなし」の由来：図書館報「やまなし」は山梨県,山梨大学の「山梨」と,樹木の「ヤマナシ」にかけています。図書館の西側に大きなヤマナシの木があり,毎年たくさん実をつけます。みんなが育てて喜ばれる図書館になるようにという願いがこめられています。

企画展示開催中

『源氏物語』と現代語訳ー与謝野晶子と谷崎潤一郎の時代

場所：本館２階第一展示室

近代文学文庫に収蔵されている明治・大正時代を中心とした作品の中から，今回は与謝野晶子と谷崎潤一郎の初版本を紹介する展示を行っています。特に両者の『源氏物語』の訳本の美しい装丁や，訳文の比較をご鑑賞ください。

与謝野晶子訳『新訳源氏物語 上巻』（金尾文淵堂）

『潤一郎新々訳源氏物語 第1巻』（中央公論社）

今後のイベント紹介

２０２２年度山梨県・山梨大学連携事業　**申込必要**

「子どもの読書オープンカレッジ」のご案内

子ども図書室では，山梨県・山梨大学連携事業の一環として，山梨県立図書館との共同企画により「子どもの読書オープンカレッジ」を実施する予定です。

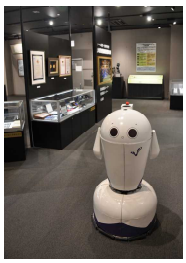
今後の詳しい日程や内容は，随時，子ども図書室ホームページに掲載いたしますので，ご参照ください。

山梨県立図書館サービス課　子ども読書推進担当
〒400-0024 甲府市北口二丁目8-1
TEL 055-255-1040（代） FAX 055-255-1042
主催：山梨県立図書館・山梨大学附属図書館子ども図書室

学外の方への利用案内

本館及び医学分館は，通常山梨大学以外の大学生をはじめ一般の方々も利用できますが，現在，新型コロナウイルス感染症拡大防止のため，学外者の方の利用をご遠慮いただいています。

最新の情報については，
https://lib.yamanashi.ac.jp/をご覧いただくか，
本館 Tel:055-220-8066，医学分館 Tel:055-273-9357
にお問い合わせください。



山梨大学附属図書館報
「やまなし」
第19巻第2号
2022年3月25日 発行
編集：館報編集委員会
発行：山梨大学附属図書館
〒400-8510
甲府市武田四丁目4－37
TEL 055-220-8063

● 表紙：大村智記念学術館案内ロボット「さとっちゃん」
場所：大村智記念学術館 （メカトロニクス工学科 提供）